

## 奈良市ニホンジカ第二種特定鳥獣管理計画の令和 5 年度実施結果

計画	計画内容	結果		
(1)被害防除	保護地区（A、B地区）に近く農業被害が大きい地域について、被害防除対策（防護柵の設置）を実施する。	【資料 4-2】 ・第 8 回検討委員会において検討した防鹿柵の設置方針に基づき、奈良阪町（鼓阪地区）において、令和 6 年 3 月 7 日～15 日に防鹿柵を 375.6m 設置。		
(2)捕獲	シカの生息密度が高い地域かつ農業被害意識が高い地域で加害個体あるいはその可能性が高い個体を捕獲する。 期間：令和 5 年 6 月 8 日～令和 6 年 1 月 31 日 地区：下記 9 地区の D 地区に含まれる集落 狛友会奈良支部：田原地区、精華地区、東市地区、帯解地区、鼓阪地区 狛友会柳生支部：東里地区、狭川地区、大柳生地区、柳生地区 方法：箱わな、足くくりわな 頭数（上限）：9 地区で合計 180 頭 狛友会奈良支部：90 頭 狛友会柳生支部：90 頭 ※両支部とも各地区の捕獲数の上限は設定していない。	【資料 4-3】 ・左記 9 地区で捕獲を実施し、令和 6 年 1 月 31 日時点で 180 頭を捕獲した。 オス：115 頭、メス：65 頭		
(3)モニタリング	1)被害調査	①防鹿柵効果検証調査	対策（被害防除対策）による被害低減効果を検証するため、前年度に防鹿柵設置箇所において、対策前後の農業被害等について把握する。	【資料 4-4】 ・令和 4 年度に設置した防鹿柵の効果検証調査（ヒアリング及び現地確認）を実施し、防鹿柵による被害軽減効果を確認した。 ・防鹿柵設置前と比べて被害意識の低減は見られたが、フェンスの押し倒し、入口ネットの引きちぎり等による侵入を確認し、被害を完全に防ぐことはできなかった。
		②捕獲効果検証調査	対策（捕獲）による被害低減効果を検証するため、捕獲実施集落における農業被害等について把握する。	【資料 4-4】 ・大慈仙町、東鳴川町を対象に捕獲の効果検証調査（ヒアリング及び現地確認）を実施した。 ・ある程度の被害意識の低減は確認されたが、耕作地にシカが継続的に出没する状況が続いており、現状の捕獲では被害の低減に結びついていないと考えられた。
		③農業被害調査 ※令和 6 年度実施予定	シカによる農林業被害の状況把握、各地域において実施すべき対策内容の検討、捕獲実施地域の選定、対策（捕獲、防鹿柵設置等）による被害軽減効果の把握のため、アンケートによる調査を行う。	・令和 6 年度に実施予定。
		④森林生態系影響調査	下層植生衰退度調査を実施し、森林内の下層植生の衰退程度を把握する。	※奈良県森林技術センターが実施 ・過年度（平成 26 年度から 27 年度）調査実施箇所のうち、旧奈良市 5 地点、旧都祁村 3 地点、山添村 2 地点、天理市 3 地点の合計 13 地点の落葉広葉樹林を対象に藤木式下層植生衰退度調査を実施した。 ・調査地 13 地点のうち、無被害が 1 地点、衰退度 0 が 9 地点、衰退度 1 が 1 地点、アセビ優占が 2 地点であり、下層植生衰退度は過年度調査結果から大きな変化はみられなかった。

## 奈良市ニホンジカ第二種特定鳥獣管理計画の令和5年度実施結果

計画		計画内容	結果
	2)生息状況調査	①生息密度調査 シカの生息状況の把握、捕獲実施地域の選定、捕獲数の設定、捕獲の効果検証のため、冬季に糞粒法調査を実施する。 対象地域：B、C、D地区	【資料 4-4】 ・令和5年12月に糞粒法調査を実施した。 ・D地区全体の平均生息密度は、15.5頭/km <sup>2</sup> （標準偏差 16.8）であり、過年度の結果と比べて大きな増減はなかった。 ・過年度調査結果と同様、B、C地区から奈良市外縁に向けた生息密度の勾配がみられた。
(3)モニタリング	3)捕獲個体調査	①基本情報調査	【資料 4-4】 ・捕獲個体に関する情報（性、外部計測値）を収集する。
		②詳細情報調査	【資料 4-4】 ・分析として、齢区分査定、妊娠率、栄養状態を把握した。 ・齢区分査定によると、令和5年度の捕獲個体の性齢の構成は過年度と同様の傾向を示し、2歳以上の個体が半数近く(49%)を占め、メス(36%)よりもオス(64%)の方が多く捕獲された。 ・2歳以上の捕獲個体には、成獣になったばかりの比較的若齢の個体が多かったと推定された。 ・令和5年度の妊娠率は、2歳以上の個体は88%で、令和4年度と比べ増加した。 ・栄養状態については、令和5年度は体重による分析を行ったが、鈴木(1994)が歯牙年輪による詳細な年齢区分により示したような季節変化は見られなかった。 また、過年度からの推移においても、大きな変化はなかった。 ・遺伝子解析用サンプルとして筋肉片を採取し、将来分析のための試料として保存した。
	4)捕獲作業の記録	・捕獲作業の評価を行うため、捕獲に関する情報（わな設置地点、わな設置基数、わな稼動期間、捕獲数、捕獲位置、見回り記録等）を収集する。	【資料 4-4】 ・捕獲に関する情報を収集し、分析した。 ・改訂したわなの管理表を、捕獲従事者に配布、記入を依頼した。